

北支那の見聞

東京女高師附屬小學校主事

堀

七

藏

一 はしがき

昭和十年十一月十七日から約一ヶ月間に亘つて北支那の視察をいたしました。外務省から在外指定學校の視察をなしその指導をなすことを委囑せられて、文部省から出張した譯であります。従つて普通の視察旅行と違つて、頗る多忙でありましたが私には頗る面白い視察でありました。けれども幼稚園保育事業に御關係の讀者各位に對し、直接御參考になるやうな事項は極めて少かつたのであります。強ひての御註文でありますから、北支那の見聞につき、成るべく保育事業に關係があり想なことを、漫然と羅列することにいたします。それが何かの御參考になれば、この上もない幸であります。

二 在外指定學校

在外指定學校といふのは、名稱の示す如く、外國に居住する本邦人の子女を教育する學校であります。滿洲國にも、支那にもこの指定學校が相當あります。同じ滿洲國にあつても、滿鐵經營の小學校は在外指定學校ではありません。新京とかハルビンとか、承德とかまた赤峰といふところには、在外指定學校があります。それで私が視察いたしましたのは北支那にある在外指定學校であります。

今この北支那にある在外指定學校を表解いたします、次のやうであります。

學 校 名	學級數	生徒數	教員數	設 立 者
北平日本尋常小學校	九	二三〇	九	社團 北京居留民會
天津日本尋常小學校	二三	一〇二四	三〇	財團 天津共益會
天津日本高等女學校	八	二〇七	二〇	財團 天津共益會
天津日本商業學校	三	一〇八	一六	財團 天津共益會
天津日本青年學校(夜學)	五	五七	一〇	財團 天津共益會
濟南高等小學校	九	三一〇	九	濟南居留民團
張店日本高等小學校	五	六六	五	張店日本人會
張店日本高等小學校青州分校	二	一三	二	青州日本人會
博山日本高等小學校	三	三一	二	博山居留民會
淄川日本高等小學校	五	六〇	五	魯大鑛業公司
坊子日本高等小學校	三	二六	四	坊子日本人會
青島第一日本高等小學校	二八	一、三二六	三四	青島居留民團
青島第二日本尋常小學校	一〇	三六四	一二	青島居留民團
四方日本高等小學校	七	二三四	八	青島居留民團
滄口日本高等小學校	七	二〇二	八	青島居留民團

青島日本中學校	一五	四一五	三三	青島居留民團
青島日本高等女學校	一二	四六三	二八	青島居留民團
青島日本青年學校(夜學)	三	一三六	一三	青島居留民團
青島學院商業學校	一一	四五二	三〇	財團青島學院
青島學院實業學校(夜學)	五	一七一	二〇	財團青島學院
合 計	一七	五八九三	二九八	

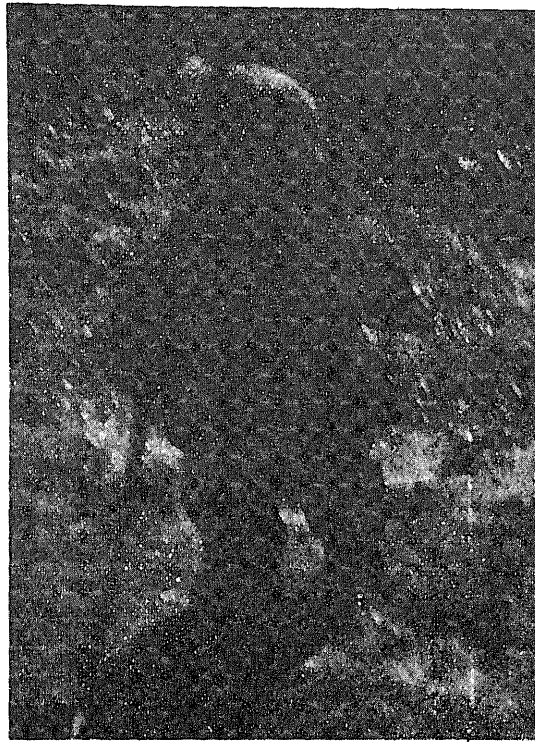
この外に、北支那には山海關日本小學校、芝罘日本尋常高等小學校等があります。そして私が視察したのは是等の在外指定學校中、博山、淄川、坊子を除いた十六校であります。

北支那に居住して働いてゐる本邦人が、その子女に義務教育を受けさせ、更に中等教育を受けさせることは頗る熱望するところであります。また我が國家にしても、一人二人の學齡兒童でも、必ず義務教育を施す必要がありますので、特に補助をなして、是等在外指定學校を經營させてゐるのであります。

三 在外幼稚園

かく在外指定學校では學齡兒童が二三人でも我が國家で補助金を出して、小學校教育を施してゐます。しかし幼稚園保育は義務ではありませんから、在外指定學校にはないのであります。只天津では天津公益會に於て天津幼稚園を經營してゐますし、また鮮人の幼稚園もあります。また濟南尋常高等小學校にも、一組の幼稚園があります。青島では宗教團體で經營してゐる幼稚園がありますけれども、青島居留民團で經營してゐる幼稚園はありません。

北支那に働いてゐる本邦人の家庭にまつて、幼稚園が頗る必要であります。北支那で働いてゐる居留民の家庭では、殆ど凡て支那人を使用して一切の家庭内の用事をさせてゐるのでありますから、一寸考へるに、母親は子女の養育や保育に



(もどこの那支)

遊ぶこゝが出来ないのであります。さうして支那人の手では頗る惡に風を不知不識の中に感染するといつた有様にあります。それで北平でも青島でも、子供達の立場からいへば、民團で幼稚園を設立する必要が痛切であります。

幼稚園は幼児を保育してその心身を健全に發達させるものでありますから在外指定學校が必要であると同様に幼稚園も必要であります。また北支那の如き所では、善良なる性情を涵養し、家庭教育を補ふ上に於て、幼稚園が頗る大切である

全力を注ぎ得る筈であります。しかし事實は中々さうは行かないやうで、支那人のボーイや支那人のアマ(婦人)に子女の養育から保育を托するものが頗る多いのであります。子供は子供同志遊ぶこゝによつて本當の幼児の生活が出来るこゝは勿論であります。しかし天津に於ける日本租界の如く、日本人の家庭が隣合せになつてゐるころでは、日本人の子供同志遊ぶこゝも出来ませう。しかし左もない北平でも、濟南でも、また青島でも、日本人の子供同志が本當に

と思はれます。

また鮮人の幼稚園では國語、即ち日本語を幼少な時代から教育することが必要であります。朝鮮では國語を常用しない鮮人の學童を教育するのに、普通學校が設立せられてゐます。しかし北支那に於ける在外指定學校では、内地人・鮮人・を區別して小學校を經營することが困難であります。爲に在外指定學校に於て、内地人の子弟も鮮人の子弟も同一學級、同一學校で教育せねばなりません。その時に國語の出来ない鮮人を混じてゐるこゝ、義務教育を施すに頗る支障を生ずるのであります。従つて鮮人幼稚園では、特に國語即ち日本語を教育することが肝要であります。

四 支那の小學校

支那では小學校の教育が發達してゐません。金持や要人の子女には小學校教育も行はれ、中等教育も行はれてゐますが、それは僅少な特別な範圍に限られたこゝで、一般勞働者や農民の子女には殆ど教育が行はれてゐません。統計がないから明白なこゝは分らないが、全國民の學童の二割も小學校教育を受けないこゝであります。

その僅少な小學校教育も頗る不完全なものであるこゝは二三の支那人小學校を參觀しても分ります。尤も北平師範大學の附屬小學校や附屬中學校は相當進歩したものであります。米國に於けるダルトンプランの教育を模範とし、ボーイスカウトを眞似した新教育をなしてゐるのであるから、日本小學校に比べても決して遜色がないのであります。しかしこんな立派な學校は一般北平市内の小學校には殆どないのでありますから、北支那に於ける小學校教育の狀態は想像するに難くはありません。一般に支那では習書の教育が進歩してゐるので、所謂、教育ある支那人は頗る能書家が多いのであります。支那は昔からの文字の國であります。只近世科學の教育は頗る缺けてゐるのであります。科學方面の研究は大學な

こでは相當進歩して居りますが、我が國の明治二十年頃の教育を思へば、先づ間違のないところでありませう。

五 支那服

北支那は我が東京なごに比べるに、緯度も高く、氣候は大陸的で、十一月頃になるに頗る寒くなります。夏は夏で頗る暑いのでありますが、冬は相當に寒く、一年中では寒暖の差が著しいのであります。その北支那の生活をなすに支那服は頗る適當してゐるのであります。和服は前でかき合せますから、お座敷に坐してゐる日本人の生活には、腹部を冷却するこごがないのであります。しかし歐羅巴の如く、冬は左程寒くなく、夏は暑くない土地では洋服で腰掛けてゐても、腹部が左程冷えるこごがありません。けれども北支那の如き寒地では、洋服は頗る不適當であります。洋服では腹部を冷却するこごが頗る著しいので、北支那に居住する本邦人は、洋服を着けてゐる爲めに腹部の冷却から消化器病にかゝるものが頗る多いやうであります。食物が支那料理であるに、日本人には油濃く不消化であるところに、洋服で腹部が冷却するので、消化器病にかゝるものが多いのでありませう。勿論日本人はお刺身を嗜好する爲め、赤痢をチフスにかゝるこごも、頗る多いのであります。天津などは赤痢やチフスが日本人の專賣であるやうでありますのは、頗る寒心すべき事實であります。

こごが支那服は、腹背が暖く出来、兩脇に合せ目がありますから、腹部の冷えるこごがありません。子供なごでも下着で腹部を十分に包み、更に上着(袍)で腹部を十分被包してゐますから、腹部の冷却するこごがありません。しかも支那料理で、日常一般に食するものは凡て煮焼したものであるから、悪い水を使用してゐるにもかゝはらず、非常に不潔な野蠻的な生活をしてゐるにもかゝはらず、傳染病が少いこごは、支那人の衣食住がその自然に叶つたものであるからであり

ませう。この點からして、北支那に於ける本邦人子弟の養育法は、現在の如く内地の儘では不適當でありませう。もつて北支那の自然的環境に適應するやうに改善せねばなりません。

六 鼻汁

北支那では寒氣が頗る強いので、鼻汁が多く出ます。それで支那人は、大人から勞働者に至るまで、悉く手鼻をかむのが常癖であります。北支那の市政府などの玄關の柱でも壁でも、手鼻をかんださき指についたのをなすりつけてあるのが、頗る不潔になつてゐます。支那の中學校長が吾等を案内してゐながら、手鼻をプックミ平氣にかみます。人力車夫が平氣に手鼻をかみつゝ行くのミ一向に差違がありません。従つて支那人の子供には、鼻がつまつて口で呼吸してゐるものが殆どありません。しかし北支那に於ける本邦人の子弟には、鼻加答兒のものが多く、また鼻孔が詰つて、口で呼吸してゐるやうなものが多いやうであります。そして北支那に於て本邦人は、比較的多く呼吸器病、殊に肺結核に罹るやうであります。鼻汁や痰唾を平氣で、床上にも道路にもまき散らされ、それに空氣が乾燥してゐるので、是等から微菌が飛散するこゝが多いからでありませう。勿論北支那は黃土の大平原であり、それが烈風に吹き上げられて眞に黃塵萬丈であります。それで北支那では、汽車中でも料理店等でも、一時間おき位に、熱湯で絞つたタオルで、手や顔を拭ふのであります。かゝる北支那に居住するには日本人の子女は餘程その生活法を自然に適應するやうに工夫せねばなりません。この點に於て北支那に於ける幼児の保育は十分研究する必要があると思はれます。

七 子供の死と墓

支那では子供が死んだときは、「親に先つて死ぬものは親不孝」といふ譯で、碌な御葬式もせず、幼児の死體はその儘、野原に打棄て、禽獸の餌に供するのが習慣であります。しかしお金持が要人なきが死亡するに、その葬式の盛大なことは驚くべきものであります。お葬式の行列が一里以上に及ぶものが珍らしくないし、わざ／＼泣く人を招いてその葬式の列に加へて泣かしめることも支那の一特色であります。また年寄が死んだときにはバン／＼盛に花火を上げたり、太鼓、鐘、笛などを鳴して賑かに騒ぐのであります。凡てに面子(面目)を尊ぶ支那では結婚式の行列でもお葬式の行列でも頗る見事なものであります。けれども幼児の死なきは殆ど問題ではありません。

北支那を汽車で旅行するに到るに土饅頭があります。これが死人を埋葬した墓であります。支那は廣い／＼野原であるから方角でも位置でも凡てトふのであります。それでお墓もトつてその方角を距離を定めるのであります。従つて他人の耕作してゐる土地であらうに、鐵道であらうに、おかまひがありません。ここにでもトつた場所に死人を葬つて墓にするのでありますから、到るに墓があります。曲阜なきに行く途中には樹木で取圍まれた立派な墓もあります。天津から北平なきに行く途中には、單に土を盛上げただけの墓が頗る多いのであります。貧富によつて墓に多少大小があるやうですが、凡て土葬であります。

八 日本語と意味の異つた支那語

支那語で日本語と同形であつて、意味の異なつた言葉があります。支那では汽車を火車と稱し、自動車は汽車といつてゐます。電車は日本も支那も同じでありますが、「火車小心」といへば「汽車に注意せよ」といふことであり、「汽車慢走」といふならば、「自動車は徐行せよ」といふ意味であります。

花子おこいへば、日本でお嬢さんか、奥様の名前ですが、支那語では乞食こじきのここであります。支那語で菓子おを書けば、果物のここで、吾々が菓子おこいふものこは意味が異なります。

また當舖おを書けば、日本では當店の意に使はれるが、支那では質屋おこいふ意味であり、勉強するこいへば、日本語では良い言葉であるが、支那語では無理やりにこいふ意味になります。

こんな工合に同じ語であるが、意味の著しく異なるものが少くない想であります。それで茲には只一例を上げたゞけで一々列挙する必要がありますまい。

九 棄 兒

青島では棄兒の場所が青島市政府で設けてあります。それはもご特志婦人によつて始められたものであると申します。奉天の城内にも棄兒の場所があるを申しますが、私は先年滿洲に行つたとき、見る機會が得られませんでしたので今回特に青島の棄兒所を見學いたしました。

一體棄兒をするには、いろいろの事情がありませう。不義の兒を養育するのに困つて棄兒をするものもありませうが、多くは貧困のために産兒を養育することが出来ないものであります。

英國でも佛國でも、所謂孤兒院おこいふものが頗る發達してゐます。是等は我が國の孤兒院とは大に違つてゐます。扶養するものがない眞の孤兒でなく、父たる男が不明白で産んだ嬰兒を養育することが出来ない母親がその産兒を孤兒院に托するのが多いのであります。即ち眞の孤兒でなく、少くも母親が明白であるが、その産兒が手足纏おなつて自活することが出来ない場合に、市役所の籠の中にその産兒を置いて歸るこいつたものが多いのであります。従つてこれも棄兒で、

その棄兒を孤兒院で養育するのが、バリでもロンドンでも、亦ベルリン、ハンブルグなどでも多いのであります。

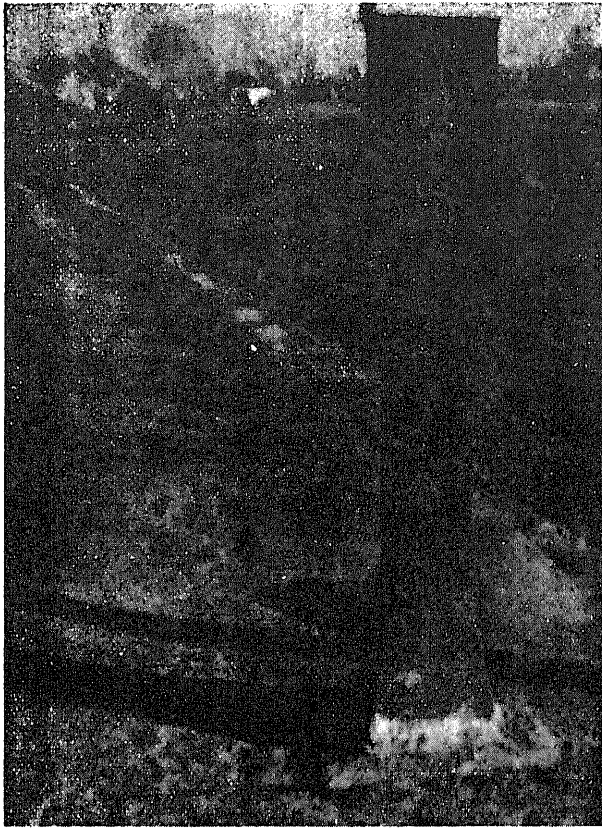
支那の棄兒も亦同様であります。育てるこゝの出来ない母親が棄兒をするものが多いのでありますから、市政府でそれを集めて養育し、相當に成長するこゝ、また賣拂ふのだ想です。兎に角青島の棄兒所に行くこゝ、街路に面した壁がある室に案内せられました。その室の壁には五十糎位に三十糎位の矩形の窓があります。この窓から室外の棚の上に棄兒箱が出してあります。この棄兒の箱を室内に引入れて見るこゝ、一寸蜜柑箱位で、その中に嬰兒をねかせるこゝが出来るやうに出来てゐます。若しこの箱の中に棄兒するこゝ、嬰兒の重さで箱の底に裝置してある。押釦を押すので、室内に棄兒のあるこゝが直に分ります。それでその棄兒箱を引入れて棄兒を受取り、またその箱を室外に押出して置く仕掛になつてゐます。

その兩側壁に沿ふ寢臺が二臺あります。そしてこの室には二人の人が必ず宿直するのであります。日中棄兒をする人が稀で、朝早くか、夜遅くかに棄兒が行はれるのであります。それで棄兒があるこゝ、寢臺に寢てゐる人は呼鈴をきゝつけて直にその棄兒を受取ります。そしてまた棄兒箱を外に出します。かくて次から次ぎ棄兒があつても、直に受取るこゝが出来ます。それでこの室を接嬰室と名づけてあります。この棄兒はこの接嬰室で受取つてそれゝ養育するのであります。かくて嬰兒から十歳頃になるまで養育するのがこの棄兒所であります。

一〇 人身の賣買

支那では人身賣買が普通に行はれるのであります。藝者などは十二三のとき、買はれたものが多いといはれてゐます。年三つた女が田舎に行つて、十二三の容姿のよさ相な娘を四五十弗で買つて來て、それを育て、藝者に仕上げその收入によつて生活するのが普通であるといふこゝです。それで一寸滑稽な話があります。私は十二月一日に山東省の兗州から曲

阜にある孔子廟に行くとき、兗州で人力車に乗ったのであります。兗州より曲阜城まで二十七里あるので、少くも三時聞かゝるのであります。案内役の黒川氏（済南日本小學校の先生）と私とで雇った人力車が二臺。私は肥満して七十五斤も



（路 道 の 那 支）

ありますから、若くて強い車夫の人力車に乗つて曲阜に着いたのであります。一體支那の道路は頗る悪いので、日本の五里以上のところを走るのがありますから大變であります。曲阜城について大成殿で孔子像なごに参拜し、聖林で孔子の墓に詣で、さて歸りまいふので、かの兗州から雇つて來た若くて強い車夫の人力車に乗らうしたのであります。するゝ私の車夫（甲）が私に黒川氏の車夫（乙）の人力車に乗れまいふのです。それで

私と黒川氏は車夫と人力車を交換して歸路を走り出したのであります。それで車上から黒川氏が「さうして乗る人を交換したのか」を甲の車夫に尋ねて見たのであります。

するに、あの人(私)を指しつゝは大變重いです。僕(甲)は饅頭を二つしか晝食にたべない。あの男(乙)は饅頭を四つたべてゐるから」こいふ返事であります。饅頭を二つしかたべないから重い人では困るこいふ譯なのであります。

更に、「さうして君は饅頭を二つしかたべないか」尋ねるに、その返事が振つてゐます。「あの男(乙)は妻がないから饅頭を四つたべたが、私(甲)には妻があるから二つしか饅頭をたべないのです」こいふことであります。支那婦人は車夫の妻でも働かないのですから、夫は妻を養はねばならぬので、二つの饅頭を節約する譯であります。

「それならば君には妻が幾人あるか」こいふ、きくこいふ二人の妻ある」こいふ返事であります。「その妻は幾歳か」こいふ尋ねるに、「十八歳と十六歳」こいふ答であります。「するに君は幾歳か」尋ねるに、三十八歳」こいふことであります。乙の夫に向つて「さうして君は妻ないか」尋ねるに、「お金がないから買へないのだ」こいふ返事であります。甲はお金があるので、十八と十六の二人の女を妻に買ったのであるが、乙は妻を買ふお金がないこいふ譯であります。學校の小使などでも五六十圓から二百圓位までの女を買つて妻にするのだ想であります。

金持が第一夫人、第二夫人から第五夫人、第六夫人と、多くの妻を持つてゐるも當然であります。青島で張宗昌の第五夫人が今は俳優になつて人氣を呼んでゐる支那芝居を見たのであります。

一一 大家族

支那には大家族が多い。滿洲吉林省には、四代同居の一家族で四十七人も居るのがあるこいふことであります。第一夫人は勿論、第二夫人も第三夫人も凡て同居してゐるのが、支那の風習であります。兄弟の家族は勿論、第一夫人の子供も第二夫人の子供も同居してゐる譯であります。その點からしても大家族になります。かゝる大家族でその家内が睦しく

生活するには、その間に戸主の權威が頗る強くなければなりません。戸主の支配の下に、或は書記役、或は勘定役、或は農耕、或は運搬、或は炊事、應接、衣服の調達等々、それ／＼分業的に皆各其分に應じて役割を定められてゐるのであります。若し家族でその分擔してゐる役目を怠つたり、罪を犯したりする者があるさ、戸主はこれを懲しめします。また家族内で争でも起れば、戸主は其の兩方を詞堂さいつて祖先を祭つた堂の中に呼寄せて裁判をなし、よくない方に罰を課するのだ想であります。

支那でも、自分の兒の可愛いのが人情であります。その人情を傷つて弟の兒を可愛がるやうにせねば大家族を統御することが出来ないのであります。それで偽は人が爲すに書く位で、支那人の偽は誰でも人の爲すことでもあります。第一夫人や第三夫人が夫の愛を得るが爲めに、その兒を利用するので、幼少の頃から偽をなすことを母親から教育せられるので、支那人は偽をいふのが當然であるさといはれます。

昔唐の高宗が泰山にお参りになる時大家族で評判の高い張公藝の家にお立寄りになりました。この張公藝の家は今の山東省兗州府にあつて九代の間の身内が皆一緒にゐたさといふから、頗る大家族であつたものでせう。その大家族が仲のよいところを高宗が面のあたり御覽になり、お褒めになり、さてさうしてそんなに睦しくすることが出来るかとお尋ねになつたのであります。するさ張公藝は筆紙を取寄せて、忍の字を百も書いて高宗に差出しました。天子がこれを御覽になつて、「成程凡ての者が凡ての事に忍耐でありさへすれば一家さうか、一國でもよく治まるさであらうさ、深くお感じになつて絹を御褒美に賜つたさといふ話があります。